

岐阜県と楽天との連携について



平成22年11月
岐阜県商工労働部

楽天との連携協力に関する協定

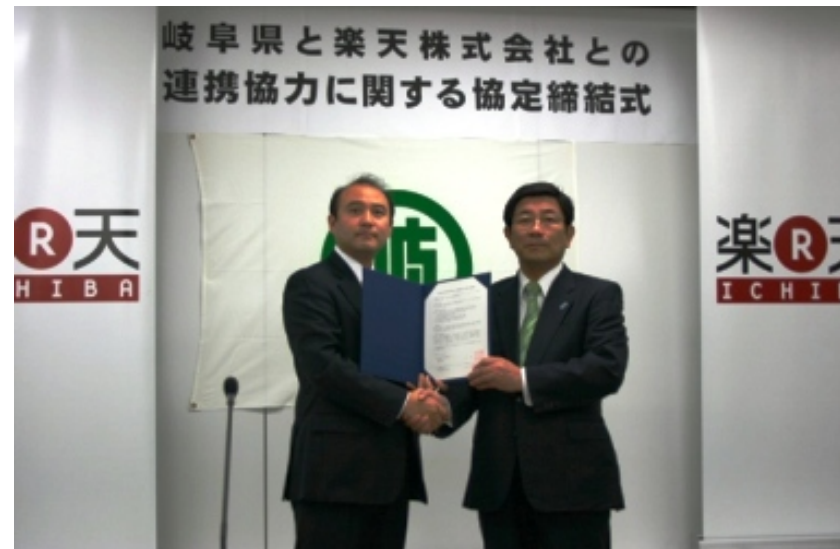
知事と三木谷社長が面談

- ・21年10月5日(月)に楽天本社で、古田知事と三木谷社長が面談。包括連携の締結について合意。
- ・連携事業のあり方やインターネットショッピングの可能性について、意見交換。



県庁で協定締結式を開催

- ・21年11月9日(月)に小林正忠常務出席により、岐阜県と楽天との連携協力に関する協定を締結。(連携事項)
- ・県内企業のITを活用した販路・受発注の拡大
- ・県産品及び農産物等の販路の拡大
- ・県の観光誘客
- ・地域産業のIT利活用の促進
- ・県の政策、事業等に係る情報発信



販路拡大セミナーの開催

- ・ネット市場の動向やオンラインショップの开店・運営の手順などを紹介するセミナーを県内各地で開催。県主催のセミナーに加え、市町村や商工会議所・商工会と連携したセミナーを展開中。
- ・<第1弾> 21年11月に県内5会場で「インターネットを活用した販路拡大セミナー」を開催。319社363人が参加。楽天からの説明に加え、開催地近隣の楽天成功店舗の店長が体験を発表。セミナーを通じた出店者数は38。
- ・<第2弾> 22年3月に「インターネットを活用した販路拡大セミナー & パネルディスカッション」として実施。並行して会場内の別室で、楽天の既出店店舗向けの勉強会・交流会を開催。参加者は約610名(うち、セミナー参加者約530名、既出店店舗77名。)。出店決定者は32。
 - 第1部: 楽天スタッフによる販路拡大セミナー(既出店店舗向けには勉強会を開催)
 - 第2部: ショップ・オブ・ザ・イヤー受賞店舗を含む成功店舗5名によるパネルディスカッション
 - 第3部: 個別相談会(既出店店舗向けには会費制の立食交流会を開催)
- ・<今年度> 市町村別にセミナー開催を働きかけており、11月現在、恵那市、関市、岐阜市、瑞浪市、中津川市で開催。計129社143人が参加。今後、他市町においても、さらに実施予定。



ぎふネットショップマスターズ倶楽部の設置

- ・楽天出店店舗を中心に、県内でネットショップを営む事業者の異業種交流会を県が設置。
県下3地域で隔月の例会を開催し、店舗による事例発表や勉強会を開催。11月現在の会員数は411名。
- ・5月に開催した第1回例会は、3会場で184人が出席。
- ・8月11日の第2回例会は、全県の会員が一堂に会する全体例会として開催。仲山進也楽天大学学長を招いての講演会、ツイッターのセミナーを開催。230人が出席。
- ・第3回例会は11月に県内5ヶ所で開催。来年2月には岐阜市で全体例会を開催予定。



テレビや新聞におけるネットショップの紹介

- ・岐阜放送テレビにおいて、毎週土曜日夜に放送中の県内中小企業紹介番組「ぎふビジネスフューチャー」(5分間)において、毎月1回、楽天出店店舗を紹介。年間を通じ12店舗程度を紹介予定。これまでに6店舗分を放映済み。
- ・過去の放送分はネット上で視聴可能。

<http://www.zf-web.com/businessfuture/>

緊急雇用創出基金事業を活用した県委託事業として制作。

- ・3月5日には、古田知事と三木谷楽天社長との対談を岐阜県広報として岐阜新聞に掲載。ネットビジネスの普及などについての対談。



「楽天IT学校」を通じたネットショップ運営人材の育成

- ・将来のネットビジネスに携わる人材育成を目指し、楽天が行う社会貢献活動の「楽天IT学校」を県内に誘致・開催。
- ・土岐市の土岐商業高校において、6月28日より1月まで8回の講義を実施。市内の和菓子店と連携し、11月には実際にネットでの商品販売も実施。
- ・同校では別途、独自のネットモール「とっきいの里」を開始しており、楽天IT学校でのノウハウを活用予定。



県制度融資において、「産業活性化資金(電子商取引支援枠)」を創設 ～ 楽天への出店経費などに無担保・無保証で資金を貸付～

岐阜県では、電子商取引の拡大を図るため、県内に事業所を有し、インターネットを活用した電子商店街への出店や自社ホームページによるオンラインショップ等の運営を行う場合、出店料、年間利用料、広告・宣伝費用など必要な事業資金を貸し付ける制度を創設しました。

- ・融資限度額：300万円以内、融資利率：年1.4%、償還期間：5年以内
- ・信用保証料：県が全額を負担、担保は原則として不要
- ・融資目標額（融資総額の限度額）：1億2千万円
- ・実施期間：平成21年12月1日から 昨年度の利用実績は5件、約1千万円。

県内店舗の販路拡大

楽天上での物産展「岐阜県いいもの祭り」の開催

- ・第1弾として、21年11月25日から12月25日まで、飛騨美濃すぐれものなど県産品32品目を紹介・販売。期間中の参加店舗総売上は約7,530万円。催事ページ流通は約300万円。
- ・第2弾となる「岐阜県いいもの祭り」を6月18日から7月20日(火)まで実施。参加36店舗の総売上は約1億5260万円。催事ページ流通は約350万円。
- ・第2回は店舗の参加感を高めるため、参加費3万円を徴収するほか、県庁ブログに店長の寄稿も掲載。
- ・商材は県産品以外の商品も対象に。顧客メールアレス獲得に向けプレゼント企画も統一して実施。
- ・第3回目の物産展は、11月25日から12月27日まで、「岐阜・福井合同物産展」として開催。



物産展参加店舗と知事との意見交換会、交流会を開催

- ・「岐阜県いいもの祭り」の開催に合わせ、知事と参加店舗4名による意見交換会、約30名との立食交流会を開催。
- ・交流会では参加店舗の商材紹介の場を設け、試食等も実施。また、知事との写真撮影及び各店舗のページにおける活用をフリーに。

岐阜県知事古田肇氏も興味津々！



右：岐阜県知事 古田肇氏
左：養老の地玉子店長大塚あや

県内店舗の販路拡大

海外向け「クラフト観光展」の開催

- ・2月26日から3月29日までの1ヶ月間、外国語によるショッピングができる海外ユーザー向けの「楽天海外販売」において、海外向けの岐阜県クラフト観光展を開催。中国語(簡体字、繁体字)によるページをつくり、中国語圏に向け実施。
- ・楽天海外販売のノウハウ講習会も開催。
- ・期間中の売上は約60万円(物販38万円、宿泊予約22万円)。実施経費は140万円(県費)。海外における購買行動の特徴や海外販売促進のヒントなど、ノウハウの獲得に成果。
- ・第2回は11月29日から1月7日まで、「岐阜県フェア2010」として英語で開催。参加店舗に向けた無料翻訳支援サービス、空港や県内観光地でのノベルティグッズ配付等も実施予定。



「まち楽・岐阜」におけるミニ物産展

- ・「まち楽・岐阜」内の「岐阜名産品カタログ」のコーナーを活用し、市町村単位のミニ物産展等を開催。
- ・第1弾は、県内市町村で初めて楽天との連携協力協定を締結した関市の刃物製品や特産品をとりまとめた「関市ミニ物産展」を3月30日より3ヶ月間開催。
- ・第2弾は、県内2番目に連携協定を締結した岐阜市のミニ物産展を7月1日より、第3弾は多治見市が10月1日より3ヶ月間開催。



楽天トラベルにおける「岐阜県観光特集」の掲載

- ・楽天トラベル上に特設ページをつくり、宿泊・観光誘客を促進する特集を21年度より実施。
- ・22年夏は、6月30日から9月29日までの3ヶ月間実施。ターゲットを20代後半～30代の女性とし、岐阜県の夏の自然を満喫できるスポットや夏限定のアクティビティ、ご当地グルメ、夏のイベント情報をPR。
- ・「楽天トラベル」に登録するユーザーのうち、関西圏在住のターゲット層に対しては、メールマガジンを発信。
- ・「楽天スーパーポイントプレゼントキャンペーン」や「まち楽 岐阜」と連動したご当地グルメ購入促進も実施。 ・県補助による県観光連盟からの委託事業として実施中。



宿泊予約動向セミナーの開催

- ・急激に増加しているオンラインの宿泊予約を通じて、より多くの宿泊者を取り込むため、楽天トラベルと連携し、宿泊予約の最新動向セミナーを、2月25日に岐阜市、3月1日に高山市で開催。両会場で約100名が参加。
- ・セミナーでは、地域ごとに宿泊者の属性を含む宿泊予約の動向、外国人宿泊の動向等について、楽天トラベル担当者がデータを交えながら説明。
- ・9月15日に高山市でインバウンドセミナーを開催。クリスマス時のクラフト観光展についても説明。 8

飛騨・美濃観光大使による観光情報等の発信

- ・「まち楽・岐阜」内の県庁ページに、飛騨・美濃観光大使である元スピードスケート選手の勅使川原郁恵さんが「飛騨美濃じまんナビゲーター」として、観光情報や県産品等を紹介するコーナーを設置。

フリーペーパーと楽天トラベルとのクーポン連携

- ・飛騨高山の地元フリーペーパー「ひだっちマガジン」と楽天トラベルが連携し、飲食店・レストランを紹介するクーポン(楽トラクーポン)を、楽天トラベルの宿泊予約者に配信するサービスを4月より開始。同誌においてもQRコードの掲載により、同クーポンをPR。
- ・連携にあたっては、県がひだっちマガジンと楽天トラベルのビジネスマッチングを実施。

楽天 × ひだっちマガジン
4/10日 Start!

楽天トラベル×ひだっちマガジンのコラボレーション

楽天トラベルとひだっちマガジンのコラボレーションにより、4月1日(木)より楽トラクーポンがひだっちマガジン読者の方にご利用いただけます。お好きな店舗のQRコードを携帯で読み取るだけで、すぐにお得なクーポンをご利用できます。クーポンは、店舗の詳細や地図なども掲載されているので、とても便利です。

楽天トラベルとは <http://travel.rakuten.co.jp/>

楽天トラベルは、楽天が運営する、旅行の予約検索サイトで、ホテル・旅館・国内旅行ツアー・国内線チケット・渡航バス予約・レンタカー予約及び、海外ツアー・国際線チケットなどの予約・販売をネットで行っている、日本最大級の旅行情報サイトです。

旅行の計画は 楽天トラベルで!!

- 宿泊
- 航空券+宿泊
- 高速バス
- レンタカー
- 航空券
- ペットホテル

グルメ情報とクーポンをGet!

読み取るとすぐに表示!

飛騨牛

飛騨蕎麦

高山ラーメン

天狗庵本店

松書すし

岐阜 現地から / 飛騨・美濃じまん

「飛騨・美濃じまん」ナビゲーター
飛騨・美濃観光大使 勅使川原 郁恵さんからのメッセージ

私のふるさと岐阜県を紹介します。

岐阜と言えば、1300年以上の歴史を誇る「清流長良川の鵜飼」、世界文化遺産の「白川郷」、白川郷とともにミシュランの三つ星に輝

県職員リレーブログ「ぎふっ子くらぶ」の開設

- ・県職員自らが地域の見所や旬の情報、地元の逸品などをリレー形式で紹介していくブログ「来て見て食べてぎふっ子くらぶ」を、「まち楽岐阜」内に21年11月13日に設置。
- ・書き手は庁内から公募した約90名。
- ・22年1～3月には、部長級職員約20名も別途参加し、自ら取材・執筆した記事を掲載。
- ・22年8月から県民にも書き手を拡大。公募に応じた県民7名が「ふるさと特派員」として参加。
- ・各部単位で地域資源を紹介する「県庁とおき情報」や、東京における岐阜県関連情報を発信する「東京ぎふ情報」コーナーも設置。
- ・11月15日現在のアクセス数は約146,000件。



国際交流員等による英語ブログの開設

- ・9月6日より、国際交流員による英語ブログ「Gifu Crossroads」もスタート。楽天の自治体ブログに英語版が登場するのは全国初。
- ・県に勤務する国際交流員や外国語指導助手の有志が、独自に取材した記事や県内の見どころ等を紹介。さらに、「ぎふっ子くらぶ」の中から外国人に興味を持たれると思われる記事を翻訳して掲載。



地域振興に向けた取り組み

「岐阜ファンクラブ通信」の配信

- ・楽天市場会員あてに、岐阜の名産品・特産品、観光情報、県政情報をメルマガ配信するサービス「岐阜ファンクラブ通信」を22年5月13日より開始。岐阜県情報を希望する全国のユーザーに対し、年4回のペースで配信。
- ・第2回目は8月10日に配信。
- ・登録キャンペーンの効果もあり登録者数は約1万1千人。
- ・岐阜県の観光パンフ等を希望する読者の募集も行っており、約615名が登録。関係課から郵送を実施。



まち楽にふるさと納税窓口を設置

- ・楽天におけるふるさと納税の取り扱いを22年4月1日より開始。「まち楽」内に紹介・誘導バナーを設置。
- ・実施にあたり楽天銀行を岐阜県の収納代理金融機関に指定。(ネット専用銀行の指定は岐阜県で初めて)
- ・クレジットカードを用いた寄付を7月21日から取扱い開始。
- ・ファンクラブ通信でのPRも功を奏し、特に5月のふるさと納税ページへアクセスは前年同月比倍増。寄付額も急増。



? ふるさと納税とは

ふるさと納税とは、生まれ育った故郷やご縁があった地域、お世話になった地域などへ支援する寄付金のことです。この寄付金額に応じて住民税と所得税から一定の控除を受けることができます。「ふるさと」といっても出身地でなければいけいなく、自由に寄付として地域へ支援することができます。

地域振興に向けた取り組み

県内障がい者施設の授産製品販売ショップの開設

- ・楽天市場に、県内障がい者施設の授産製品を取り扱うショップを「せいりゅう楽天市場店」を6月15日に開設。
- ・ふるさと雇用再生特別基金事業を活用し、県から岐阜県福祉事業団への委託事業として実施。
- ・店舗運営者2名を雇用し、楽天大学における研修に参加させ、店舗運営のノウハウ習得を合わせて実施。
- ・10月はセット・詰め合わせ部門ランキング1位を獲得。



トップページ 会社概要 お問い合わせ・配送・返品 買い物かご メールマガジン 楽天トップ



県産品販売ショップの開設

- ・楽天市場に、優れた県産品を販売するショップを11月19日に設置予定。
- ・緊急雇用創出基金(地域人材育成事業)を活用し、(株)山高商事への委託事業として実施。2名を雇用し、ショップの立ち上げから運営を経験させ、育成。
- ・同社は別途、ふるさと雇用創出基金事業で「ぎふモノ販売促進支援事業」を通じ、様々な県産商品を、発掘・PRしており、これらの商品を販売予定。



ぎふ清流国体グッズ販売ショップの開設

- ・楽天市場に、国体グッズを販売する店舗「ミナモショップ」を10月20日に開設。国体事務局が緊急雇用創出基金を活用して実施。

笠松競馬振興事業の実施

- ・ 楽天競馬における笠松競馬馬券購入者に対する県産品プレゼント企画を21年12月から3月まで5回実施。
22年度も実施予定。
- ・ 21年より冠・協賛レースを開催。22年は「楽天銀行賞」(5月)「楽天競馬特別」(5月)などを開催。



楽天ビジネス受発注促進セミナーの開催

- ・ 全国の事業者に対する受発注の支援サービスを行う「楽天ビジネス」の活用方法を紹介するセミナーを実施。
- ・ 第1弾は、3月5日に同サービスでの取扱いが多い印刷業者を対象に岐阜県印刷工業組合と連携して開催。

楽天幹部による講演会・研修会の開催

- ・ 楽天の黒坂三重 執行役員をお招きし、県立情報科学芸術アカデミー・大学院大学において、キャリアガイダンスセミナーにおける講演会を実施。(4月8日)
- ・ 大垣商工会議所の地域産業活性化講演会において、楽天の小林正忠常務執行役員による講演会、交流会を開催。(10月6日)
- ・ 県の職員研修所における能力開発研修「企画力開発講座」において、楽天大学の仲山進也学長が講演予定。(12月1日)

楽天と市町村との連携事業

下記コンテンツを基軸に、市町村と楽天との連携が拡大中。

市町村ブログの設置

市町村職員等が各市町村の物産・観光・イベント等の情報を発信するブログを、「まち楽・岐阜」内に設置。経費は無料。バナー（看板）等は楽天が提供。



市町村別・販路拡大セミナーの開催

市町村別に「インターネットを活用した販路拡大セミナー」を開催。市町村単位で地場産業組合や商工会、商店街等を通じて集客。楽天への講師料・交通費等の経費は無料。会場は市町村が確保。

「まち楽・岐阜」での市町村ミニ物産展を開催

名産品カタログを活用し、市町村ミニ物産展を開催。経費は無料。内容、開催時期は県と調整。

< 市町村等向けの楽天連携事業説明会を実施 >

1月28日に、県内市町村、商工会議所・商工会、県庁関係課の職員を対象とした「楽天連携事業説明会」を開催。県庁担当職員からの説明に加え、楽天市場店舗開発部、まち楽、楽天トラベルの各御担当者からの説明を実施。76団体150名が参加。関心ある市町村長に対して、県商工政策課と楽天担当者が直接訪問し、連携事業についての詳細説明や打ち合わせ等を実施中。

岐阜県内市町村における連携

3月30日に関市が楽天との包括連携協定を締結
(市町村では岐阜県下初、全国でも3例目)

「まち楽」内における「関市ミニ物産展」の開催

- ・ 3月30日から6月30日まで3ヶ月間開催

関市職員ブログ「関らら日記」開設

- ・ 関市職員150人によるリレーブログ。3月30日開設。

販路拡大セミナーの開催

- ・ 7月23日にわかくさ・プラザで開催



白川町の「美濃白川四季彩街道」遊ブログがスタート

白川町観光協会が運営するブログとして、4月5日開設。

7月1日に岐阜市が楽天との包括連携協定を締結

「まち楽」内における「岐阜市ミニ物産展」の開催

- ・ 7月1日から3ヶ月間開催

岐阜市職員ブログ「ええとコたント！！岐阜市」を開設

- ・ 岐阜市職員約30人によるリレーブログ。

販路拡大セミナーの開催

- ・ 7月28日に岐阜商工会議所との共催で開催。



10月1日に多治見市が包括連携協定を締結予定

協定に先立ち、多治見まちづくり会社が、楽天市場に市特産品アンテナショップ「たじみやげ」を出店済み。

岐阜県の取り組みに対する反響

岐阜県と楽天との連携事業や、岐阜県のネットビジネス振興の取り組みについて、各方面からの発表依頼等が続いている。

事例発表

- ・ 楽天市場の新春カンファレンス「まち楽」分科会（1月13日）
- ・ 同EXPO「まち楽」セッション（7月2日・東京、8月3日・大阪）

雑誌等での紹介

- ・ 商業界（10年9月号）、日経グローバル（10年8月16日号）

来訪ヒアリング

- ・ 中部経済産業局（7月21日・11月2日）、青森県（8月26日）
愛知県（9月13日）、春日井市（9月16日）



楽天との連携事業に関するPR等の取組

知事自ら楽天との連携をPR

- ・ 21年12月議会、22年3月議会において、知事自ら楽天との連携の趣旨等について、一般質問に対する答弁の中で説明。マスコミ各紙のインタビューでも、多数言及。
- ・ 22年当初予算においては、県の重点政策の一つとして、楽天との連携事業を紹介。

県議会委員会などで楽天との連携事業を説明

- ・ 21年12月議会の企画経済委員会、22年6月議会のまちづくり・産業振興特別委員会で、楽天との連携事業を議題として説明。議員から高い関心が示される。

県ホームページのトップページで「まち楽・岐阜」のテキストリンクを設置

- ・ 「ぎふポータル」のトップページで、テキストリンクを常設し、アクセス誘導を実施中。

なぜ楽天なのか

県内企業を全力で応援してくれること

- ・楽天は、自社では商品を販売しない「ショッピングモール」であり、出店店舗が売上げを上げることが自社の売上げ増大につながるビジネスモデル。
- ・その結果として、県内事業者が楽天に出店をした場合、楽天は自社のビジネスとして応援をしてくれるモデルをつくることができる。

コンサルティングが充実していること

- ・楽天の特徴は出店後の支援が万全であること。昨年11月に県内5カ所で開催したセミナーにおいても、体験発表した出店店舗から、ECコンサルタントの支援が他社に比べて極めて充実していることが報告されている。
- ・従来、自治体に期待されていた中小企業支援の役割を、いわば楽天が自治体に代わって実施する形になるとも言える。

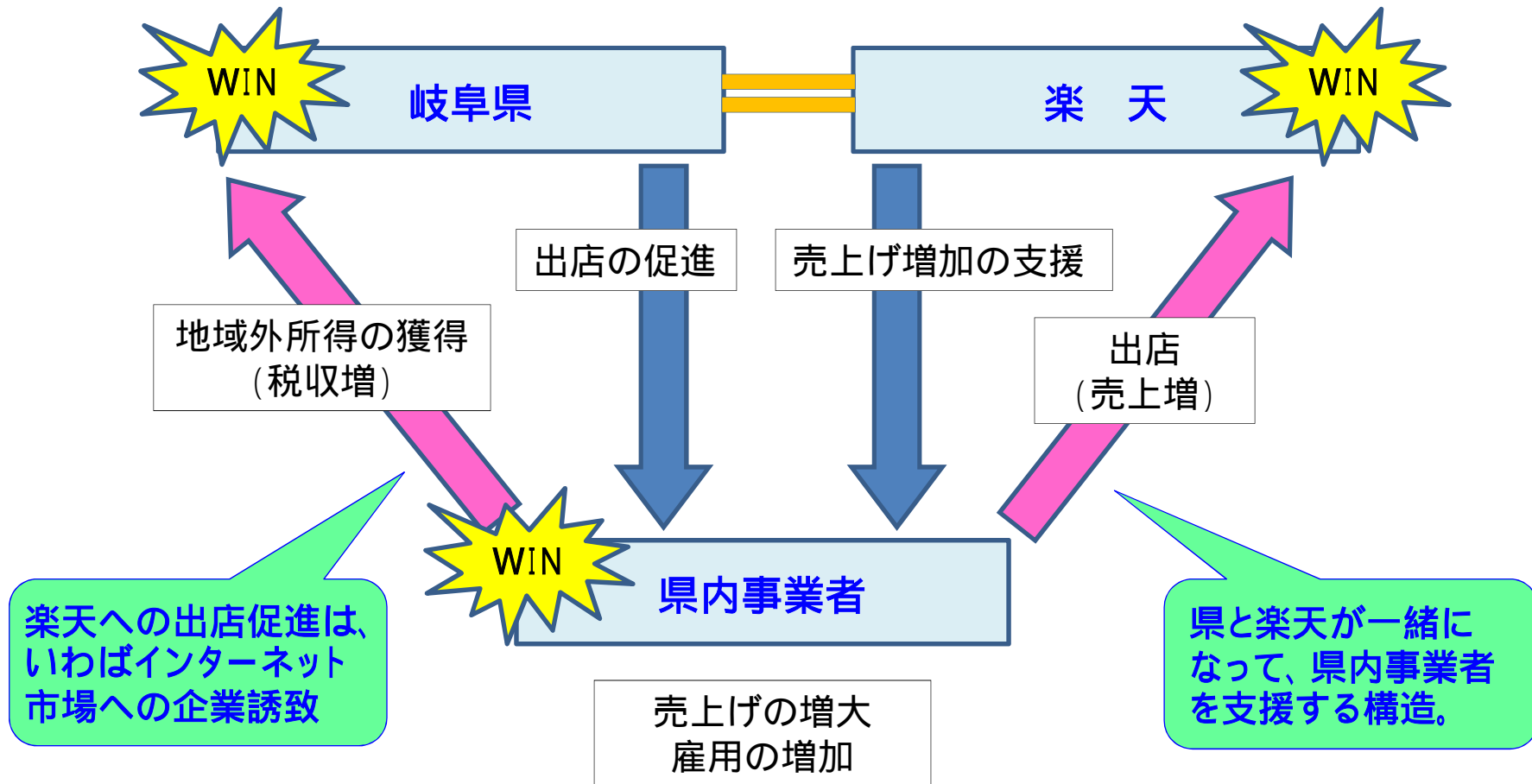
地域活性化に対する理解が深いこと

- ・楽天のコンセプトは「エンパワメント(empowerment)」「ニッポンを元気に」。その言葉のとおり、中小企業、地方の活性化に対する理解が深い。
- ・各地域の特産品や観光情報を満載した「まち楽」を自社の負担で設置していることはその実例。「県物産展」などの発展的な取り組みも多数行われている。

サービスの幅が広く、連携の発展が見込めること

- ・地方への観光誘客の増大に直接的な影響を与えている「楽天トラベル」をはじめ、ビジネスマッチングを行う「楽天ビジネス」、地方競馬の振興につながる「楽天競馬」など、幅広いサービスがあり、守備範囲の広い地方自治体にとって、将来的な連携の発展を見込むことができる。

「三方一両得」の関係づくり



岐阜県・楽天ともに、県内事業者が発展することによって、行政上、ビジネス上のメリットを獲得できるモデルであることが特徴。